令和５年４月現地情報

糸魚川駐在

～　刺し網でウスメバル漁が好調　～

４月に入り暖かく凪の日が増えてきていますが、管内の刺し網漁業では春に旬を迎えるウスメバル漁が好調です。

５日浦本漁港で行われた水揚げ作業を見させて頂きましたが、出漁した漁船から魚が羅網したままの刺し網が水揚げされ、網外しや選別、箱詰め作業が行われ漁港内は活気にあふれていました。

燃油高や魚価の低迷等明るい話題の少ない昨今ですが、好漁によって地域が少しでも活気づけば良いと思いながら情報提供させていただきます。

網外し作業

網から外された漁獲物

令和５年４月現地情報

新潟駐在

～漁業協同組合と観光業界の連携（低未利用魚の活用）～

観光関係者と寺泊漁業協同組合が連携し、低未利用魚を活用する取組の事前準備として、市場見学が４月３日に行われました。

市場見学を行った観光関係者は、日頃水揚げされたばかりの魚を見ることがないため、鮮度の良い魚が数多く並んだ様子に驚いており、この時期に多く漁獲されるソウハチや、冬の鍋物の季節が終わり需要が減少したアンコウなど、価格が安くても調理方法によって美味しく提供できる魚に興味をもっていました。

この見学を通して漁業協同組合と観光業界との連携の可能性を感じるとともに、調理方法等がわからないため、低未利用魚を使わないという人達へ、より多くの情報を発信していかなければいけないと感じました。

市場に並んだ漁獲物

セリの様子

令和５年４月現地情報

村上駐在

～三面川にてサケ稚魚放流式開催～

４月 14 日、三面川で４年ぶりにサケ稚魚放流式が開催されました。

肌寒い天候ではありましたが、三面川鮭産漁協第３ふ化場前において地元小学生約と一緒に知事や村上市長も参加して稚魚の放流を行いました。始めに屋内で神事が執り行われたあと、参加した関係者と児童が三面川に体長６～７㎝の鮭の稚魚５万尾を放流しました。

昨年８月に発生した県北の豪雨災害により、三面川鮭産漁協においては増殖施設の損壊など甚大な被害に見舞われ、関係者の方々のご尽力で復旧していますが、佐藤組合長からは、「今年放流する稚魚は試練を耐え抜いて育った稚魚、これから４年後に約２万キロに及ぶ旅を終え、三面川に再び戻ってきて欲しい。」と感慨深い挨拶がありました。

江戸時代に村上藩が世界で初めて鮭の資源保護増殖を成功させて以来、鮭の増殖事業や特色ある鮭料理など、村上地域には伝統ある鮭文化が根付いています。６月には村上藩をモデルにした映画が公開されますので、さらなる鮭文化の盛り上がりが期待されます。

神事の様子

稚魚放流の様子

令和５年４月現地情報

佐渡駐在

～加茂湖でアマモの移植～

４月２８日、加茂湖でアマモの移植作業が行われました。

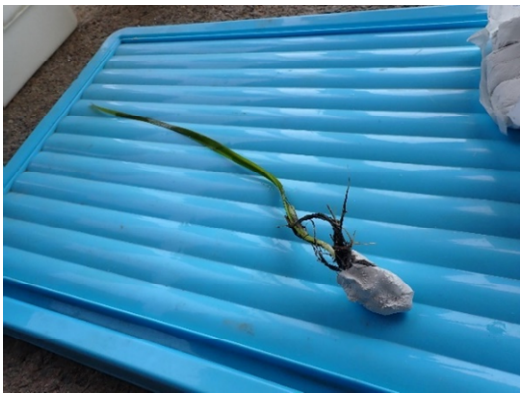
この取組はアマモ場の再生を目的として、水産庁の水産多面的機能発揮対策事業を利用して行われているものです。環境コンサルタントの企業や潜水を行う地元企業と協力し、加茂湖の天然アマモ場消失の原因を突き止め、再生させるための活動を行っております。

昨年までの調査の結果、加茂湖のアマモ場消失の原因として底質の悪化と植食性魚類の増加の２つが考えられることがわかりました。この仮説をうけ、今年度のアマモ移植では、アマモが好む底質を用いた苗の作成に加え、アマモの食害等の様子を観察するカメラを設置しました。今後は、潜水による移植アマモの生育状況調査とカメラでの環境観察を継続して行っていく予定です。

今後もこのような取り組みを継続し、漁業者自らが漁場の環境を保全する意識が浸透していくことを期待しております。

周辺海域で採集したアマモ

アマモの生長点



紙粘土を巻き付けたアマモ株